

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	コンサートプロダクト4	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサートPAコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	270時間
単位数	9単位			授業形態	実習
教科書/教材	内容に応じて資料を配布する。舞台用語事典や参考資料は授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	小峰建/吉野雄一郎		実務経験の有無・職種	有・音響会社	
学習目的					
コンサートPAスタッフとしての必要な知識の理解をはじめ、仕込み作業をスピードアップさせPAチームとしてのワークスタイルを確立し、更なるミキシングテクニックを実践的に学ぶ。この科目を受講する学生は、コンサート・イベント業界の中が協働の場である事を理解し、これまでは経験した事が無い舞台業界で求められる技術、知識を理解できるようになる。舞台とは「総合芸術である」その舞台演出の中でも音という分野を担当するという事はどういう事なのかを理解する。舞台音響業界はどのような人材を求められているか、その為にはどのような知識が必要で、どのような人間であれば良いかを理解できる様になる。					
到達目標					
1年次で得た技術、知識をもとに、即戦力となるPAスタッフを目指す実習である。この科目は、学生が目指しているコンサート・イベント業界の中で活躍するイメージを持ち、その社会の中で自分を位置づけ、その中で音響業務を担う為の技術習得を目標とする。音響業界でもライブツアーやホール管理、楽器店など多種多様な進路があり、その志望している業種、企業、職種を自分の適性や関心を結びつけて理解を深めること、そして就職志望する企業、組織で協働する事の重要性を理解できるようになることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	仕込み図や回線表をもとにセッティングを行います。またその作業を反復練習することにより、理解度とスピードを上げていきます。またそれに必要な知識、技術をゼミも併用して身につけ、グレードにて自己確認します。				
注意点	コンサート・イベント科PA実習室等、にあるPA（音響）機材を使用する。重量物も多くあるので怪我などしない様に安全第一で行う。また機材破損の無いように十分注意する。授業時数の4分の3以上出席しない者は、成績評価の対象としない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	40%	実技試験と課題提出を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	10%	理解度を確認する為に実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	50%	実習時間内に行われる発表方法や内容、積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	前期復習		前期の復習（セッティング反復練習、技術確認等）を行い、身につけている事を理解する		
2回	機材研究 1		実践的なデジタルミキサー卓のセッティングとオペレーション方法を研究する		
3回	機材研究 2		実践的なスピーカチューニング（メインスピーカシステムチューニング）を習得する		
4回	機材研究 3		楽器研究（ドラムチューニング、PAサウンドチェック）する		
5回	本番プロジェクト実習 1		学園祭プロジェクト 制作準備（セッティング、リハーサル模擬）を行う		
6回	本番プロジェクト実習 2		学園祭プロジェクト 本番、撤収にて作業工程を理解する		
7回	本番プロジェクト実習 3		学園祭プロジェクト 反省と検証、次回へ向けて課題確認する		
8回	音響測定 1		音場研究と音響測定概念を学び、理解する		
9回	音響測定 2		音場研究と音響測定の方法を習得し、技術を養う		
10回	楽器研修		楽器研究（安定した楽器電源の仕込み、楽器エフェクターについて）を行う		
11回	ライブ実習 1		卒業ライブ 制作準備（プランニング、仕込み、オペレート、チューニング練習）を行う		
12回	ライブ実習 2		卒業ライブ 制作準備（制作準備（リハーサル、セッティング模擬））を行う		
13回	ライブ実習 3		卒業ライブ 本番を通じて作業工程を理解する		
14回	グレード試験 1		グレード試験 対策実習。実技試験を通じて、習得できた技術を確認する		
15回	グレード試験 2		グレード試験。実技試験を通じて、習得できた技術を確認する		